

亂箱

あけてだに何にかはせむ水の江の浦島の子を思ひ遣りつ、

〔倭名類聚抄十四〕澡浴具巾箱 雜題猪髮子詩云委質巾箱裏巾箱者盛手巾之器也俗云打亂匣

〔箋注倭名類聚抄十六〕澡浴具廣本无名字巾箱見漢武内傳幽明錄世語述異記異苑齊書北堂書鈔引

之按集異志晉孝武太元中帝每聞手巾箱中有鼓吹鞞角響中打亂匣中後世省呼亂匣

〔書言字考節用集七〕器財亂箱ミダレダシ

〔女重寶記五〕女用器財亂箱ミダレダシ

〔和漢三才圖會三十二〕家飾具巾箱 打亂匣和名美太禮波古略中

按巾箱者無蓋匣也或云梳髮盛其亂髮故曰亂箱

〔貞丈雜記八〕調度一打亂箱の事貞衡云打亂箱は手箱のかけご也それを別に作りて打亂箱と云也

云々うちみだれといふはわろしうちみだりと云べし源氏物語繪合の卷にうちみだりのはこ

とあり花鳥餘情に云一條兼良うちみだりの箱のふたの上にては髪をけづる時打みだし侍れ

ば篋の名とせる也云々倭名抄云巾箱者盛手巾之器俗曰打亂匣云々上古は手のごひをも入た

る物也唐木蒔繪等様々あり

〔類聚雜要抄四〕打亂篋長一尺一寸五分蓋定深一寸蓋定弘九寸五分蓋定深一寸

料木三尺三寸弘一尺一寸 木道單功廿疋 髮上時料 裏蒔錦文金十兩二分 漆三合 磨料

二百五十疋 裏塗一疋 口白錫十一兩二分 螺鈿料五百五十疋 同堀入料十疋 堺料七十

疋尻木 口置料十六疋 打亂篋納衣文綾一丈 承平四年中宮御賀被用之

〔新儀式四〕臨時天皇奉賀上皇御筭事

當日早旦行寢殿御裝束其儀母屋東第三間立太上皇大床子三脚註其上立御脇息又置唾壺打

亂御匣等